

妊娠高血圧症候群等療養援護費支給対象者認定基準

分 類		基 準
妊 娠 高 血 圧 症 候 群	1) 妊娠高血圧腎症 *1 妊娠20週以降に初めて高血圧症が発症し、かつ蛋白尿をとともうもので分娩後12週までに正常に復する場合をいう。	①高血圧 収縮期血圧160mmHg以上 または 拡張期血圧110mmHg以上 ②蛋白尿 2g/day以上、随時尿を用いた試験紙法による成績しか得られない場合は、複数回の新鮮尿検体で、連続して3+以上(300mg/dl)の陽性と判明されるとき。
	2) 妊娠高血圧 *1 妊娠20週以降に初めて高血圧症が発症し、分娩後12週までに正常に復する場合をいう。	高血圧： 収縮期血圧160mmHg以上 または 拡張期血圧110mmHg以上
	3) 加重型妊娠高血圧腎症 *1 (1) 高血圧症(chronic hypertension)が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し妊娠20週以降蛋白尿をとともう場合 (2) 高血圧症と蛋白尿が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降、いずれか、または両症状が憎悪する場合 (3) 蛋白尿のみを呈するが腎疾患が妊娠前あるいは妊娠20週までに存在し、妊娠20週以降に高血圧が発症する場合をいう。	医師の診断による
	4) 子癇 *1 妊娠20週以降に初めて痙攣発作を起こし、てんかんや2次痙攣が否定されるもの。痙攣発作の起こった時期により、妊娠子癇、分娩子癇、産褥子癇という。	医師の診断による
	5) 関連疾患	必ずしも妊娠高血圧症候群に起因して発症するものではないが、かなり深い因果関係があり、また重篤な疾患。肺水腫・脳出血・早剥・HELLP症候群の4疾患を対象とする。
糖 尿 病	1) 妊娠前から診断が確定している糖尿病の合併妊娠	糖尿病の診断基準は日本糖尿病学会の診断手順による。
	2) 妊娠時に診断された明らかな糖尿病	診断基準は日本糖尿病・妊娠学会の診断基準(表1)による。
	3) 妊娠糖尿病 *2 妊娠中にはじめて発見または発症した糖尿病にいたっていない糖代謝異常をいう。	診断基準は日本糖尿病・妊娠学会の診断基準(表2)による。
貧 血		血色素がおおむね8g/dl以下のもの。
産 科 出 血		産科出血により出血多量で輸血その他の応急処置を必要とするもの。
心 疾 患		先天性あるいは後天性の心疾患を有し、心不全、肺水腫、心内膜炎、心房細動等の不整脈等病態の悪化が認められるもの。

*1 妊娠高血圧症候群の病型分類は日本産科婦人科学会による妊娠高血圧症候群の定義・分類(2005)による。

*2 妊娠糖尿病の定義は、日本糖尿病・妊娠学会の定義(2010)による。

表1 妊娠時に診断された明らかな糖尿病

以下のいずれかを満たした場合に診断する。

1. 空腹時血糖値 $\geq 126\text{mg/dL}$
2. $\text{HbA1c} \geq 6.5\%$ (HbA1c (JDS) $\geq 6.1\%$)
3. 確実な糖尿病網膜症が存在する場合
4. 随時血糖値 $\geq 200\text{mg/dL}$ あるいは75gOGTTで2時間値 $\geq 200\text{mg/dL}$ の場合

※いずれの場合も空腹時血糖かHbA1cで確認

HbA1c：ヘモグロビンA1c。血液中で酸素を運ぶヘモグロビンとブドウ糖が結合した物質で、現時点より過去1~1.5ヶ月間の平均血糖値を反映しているため、血糖コントロールの状態がわかる。

表2 妊娠糖尿病

75gOGTTにおいて次の基準の1点以上を満たした場合に診断する。

1. 空腹時血糖値 $\geq 92\text{mg/dL}$ (5.1mmol/l)
2. 1時間値 $\geq 180\text{mg/dL}$ (10.0mmol/l)
3. 2時間値 $\geq 153\text{mg/dL}$ (8.5mmol/l)

75gOGTT：75g経口ブドウ糖負荷試験。ブドウ糖摂取後の血糖値や血中インスリン濃度の推移から、糖尿病の診断の目安とするとともに耐糖能の評価をおこなう。